

3月11日の地震でマンションの7階にあるわが家の書斎の本棚は殆ど倒れ、全ての本が床の上に落ち、散乱した。この本はその整理中に発見した。奥付に発行日は2006年4月26日で初版となっている。原発反対運動しておられた阿蘇先生から頂いた本である。

本の内容は今後想定される東海地震によって浜岡原発が被災した場合に発生しうる首都圏地域の被害状況などを分析し説明したものである。浜岡原発の脆弱性は無論、今回起きた福島原発事故のような津波による被災で原発のコントロール不能になる可能性についても紹介している。その上、原発の被災を前提して放射能被害にどう対処するかについても紹介している。安全確保のための方法や放射能対策グッズなども紹介している。震災による円の価値が低くなることも想定し、資産の一部の外貨預金も勧めている。逃げ遅れた場合の閉じこもりの対策まで紹介している。因みに、荒川より東にいないと非難の可能性は非常に低いということで、実はこの本の出版元は「食品と暮らしの安全基金」という団体であるが、スタッフの安全のために千代田区麹町にあった事務所をさいたま市に移すというのも書かれている(現在はさいたま市所在)。最後に著者は浜岡原発の今後について5機ある原子炉から燃料棒を外し、耐震性などの実証炉にすることを提案している。

福島原発事故で今後の推移が憂慮されていた時期だったのでリアルに再読することができた。127頁のオールカラー印刷で多くの図画を使って非常に読みやすく分かりやすい。タイトルには首都圏と書かれているが、浜岡原発の西の方には名古屋が首都圏より近く位置している。万が一、今回の地震のように想定以上のことが起きたら関東中部地域の被害は甚大なものとなるだろう。

今回の福島原発事故によってこの本の内容は著者によって検証され、書きかえられるところも多く出るだろう。ただ、今回日本だけでなく世界中の原発を持っている地域の人々は本を読まなくても多くのことが分かったはずである。希望としてはこのような本を買って読む必要がない時代になること。

去る5月14日、15日に中部電力は今年3月に稼働を予定していた1、2号機の運転停止状態の延長と運転中だった4、5機を停止した。それは政治家の判断だといわれているが、ずっと以前から被災を憂慮する多くの人々が停止を要求してきたことである。今、福島原発事故によって日本の社会的状況は混乱極めている。このような時期にもしも東海地震まで起こり、浜岡原発が被災にもなったら、日本はどうなるのだろう。即刻停止命令を出したとはよっぽど恐ろしかっただろう。しかし、被災者の殆どがまだ生活の目処もたっていない傍ら、産業や地域経済の沈滞、電力不足などの理由で再稼働を主張している人もいる。(第189号・2011.6.19.)